

大すきなおにぎり

宮崎市立宮崎南小学校 2年 小寺 信慶

「いやあ、めん。」

ぼくは、けんどうをしている。大会のときはいつもおにぎりをたべている。そうすると力がわいてくる。おにぎりにつかっているおこめは、しんせきのおじいちゃんとおばあちゃんがつくってくれている。ぼくは、このおこめが大すきだ。おいしいのはもちろん、ふしぎといういろいろなことをがんばろうというきもちになってくる。そんなおにぎりもことしはない。なぜなら、おばあちゃんがびょうきでなくなってしまうからだ。かなしかった。大会でもかたなくなった。そこで自分でバケツイネをそだててみた。雨がながくつづいたせいかすぐにかれてしまった。

そんなときしんまいがとどいた。おじちゃんが一人でおこめをつくってくれた。ぼくとかぞくみんなよろこんだ。これでまた、なんでもがんばれそうだ。

おばあちゃんにきいた話では、おじちゃんおばちゃんのおこめは、むのうやくというのうやくをつかわないほうほうでぼくたちの体によいものをつくってくれたらしい。それでふしぎと力がでてくるのかとおもった。

らい年は、おじちゃんとおこめをつくろうとおもう。そしてじぶんのおこめをつくったおこめで大会にもっていくおにぎりをじぶんでつくりたい。おとうとにもつくっておとうとにもおにぎりのよさをしってほしい。いつかみんなをげんきにできるおこめをつくっていけるといいなとおもう。それがぼくのゆめだ。